

# デッチ上げによる『執行権停止』を弾劾する！

## 全くデタラメな電話連絡\*41号(3/13)

中央本部は第五三回千葉地本定期委員会について、全くデタラメな、歪曲された「事実経過」をもってする電話連絡第四一〇号を発し、「千葉地本の執行権停止を確認した」と称している。しかも、この電話連絡を「最も知らせる必要がある」千葉地本に伝達しないのだ。こんな一方的な組織運営があるか。千葉地本はいま、一四〇〇名組合員の凄まじい怒りと、全国の仲間からの激励の声に包まれている。

### 真実はこれだ！ 事実経過と千葉地本の見解

われわれは、この電話連絡第四一〇号を徹底的に弾劾すると同時に、この電話連絡がいかにデタラメであるのか、いかに事実をデッチ上げ、歪曲しているのかを明らかにする。

(1) 会場受付での身分証明書の提示を求めたことについて。

本部電話連絡では「会場ロビーにビケをはり、チェック」などとデタラメなことを書いていた。しかし、定期地本委員会を成功させるために受けが不審者、又は、地本組合員以外の入場者の身分証明を求め、チェックすることは、私服権力が会場周辺を徘徊していたことも含め当然すぎるほど当然なことである。いかに中執とは言え、身分不明の男を連れて入場しようとするれば、身分を明らかにするよう求めることは当り前のことだ。

(2) 電話連絡の「本部中執の権限で参加してきている青年部役員」について。

なぜ、千葉地本委員会に東京地青の室井や伊藤を参加させる必要があるのか。ましてや、その他身分不明の男(動労の組合員かどうか不明)は、(達)は、終始挑発をくり返し、千葉地本定期委員会を破壊するためにヤツキとなっていたのだ。

城石組織部長は、去る三月六日の本部(地本)の「話し合い」のとき、千葉地本の主張を受け入れて中泉本部青年部長以下「ざい行者」を地本事務所外で待たせたではないか。その時に、何か問題でも起きたとでも言うのか。今回も、三月六日と同じ措置をとればよい問題なのだ。

(3) 「なぐるけるの暴力」は全くのベテンだ！

以上の立場からわれわれは、福田副委員長以下四名の中執については、当然にも会場に案内すべく待機していたが、室井・伊藤以下、自動車運転手を含む「ざい行者」については、入場を拒否したのである。

しかし、この「ざい行者」達は自分達も入れろと強引に押し入ろうとし、それが果せないと思えるや、中執が入場することを妨害し、今井・小谷両中執は、室井・伊藤をはじめとするこの地本委員会破壊策動者の側に立って、「中執が暴力をふるわれた」という事象作りにヤツキとなっていたのだ。福田副委員長と城石組織部長はスムーズに入場したではないか。小谷・今井両中執も故意に入場拒否しなければどうできたのだ。

千葉地本は「千葉が暴力をふるった」というデッチ上げ策動を充分に予測していたが故に、冷静に対処し、最終的に、四中執だけがロビーへ入り、電話連絡もいつている通り、約三〇分間にわたって「話し合い」を行なったのであった。従って、暴力などは全くなかったのだ。

城石組織部長「青年部を入れなければ帰る」をくりかえす！

しかし、城石・小谷中執は「青年部を入れなければわれわれも入らない。暴力をふるわれた。帰る」と主張し、「ざい行者」とともに車に乗りこんで動こうとしなかったのだ。

地本は会議進行中であつたが福田副委員長の要請に従い、関川委員長と中野書記長がロビーで福田副委員長、今井中執と話し合い、中執の会議への参加を要請したが中執側は「青年部を入れなければダメだ」と主張して自ら帰ってしまったのである。

~~~~~

以上が全ての経過である。われわれは福田副委員長すらも千葉へ向う途中まで知らなかった「ざい行者」をもって、千葉地本定期委員会を破壊せんとし、「千葉地本の執行権停止を確認」するための口実作りに利用したこの動きを断じて認めることはできない。